

青森県立郷土館「出前授業」の一考察

豊田雅彦¹⁾

Report on the delivering class of Aomori prefectural museum.

Masahiko Toyoda

key words：教育普及、出前授業

1 はじめに

青森県立郷土館では、平成16年に学芸課内に教育普及グループを設立、平成17年に教育普及分野専門の学芸員を配置した。それから10年がたつ。小・中学校と関連する教育普及活動の大きなものとして、学校へ出向いて授業等を行う「出前授業」がある。10年間、学校団体に対して青森県立郷土館が博物館としてどのようなサービスを提供すればよいのか模索し続けてきた。特に利用の多い小学校の利用について、アンケートの結果や最近の活動等をもとに考察したい。

2 小学校団体の利用団体数の変化について

出前授業は平成15年度から集計を実施。上は年度、下は実施した小学校団体数。26年度は実施予定を含む。

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
11校	26校	35校	38校	43校	47校	43校	44校	78校	66校	51校	60校

※平成26年の県内の小学校数は323校（公立・国立）

小学校における出前授業は、始まってすぐに認知され、実施数が増えている。更に、平成23年度には実施数が大幅に増えている。これは、平成23年度に小学校において新学習指導要領が移行期間となり、出前授業の中で最も人気のある「古い道具と昔の暮らし」が、4年生と3年生の両方で実施となったためである。平成22年度までは4年生の社会で実施され、平成24年度以降は3年生で実施してきた。平成24年度以降、実施数は増加していないが、依頼数は大幅に伸びている。平成23年度までは、4年生の「古い道具と昔の暮らし」は2学期の単位であるため、依頼がある学校についてはほとんど実施できた。しかし、平成24年度以降は、依頼されたものの実施できない学校がでてきた。それは、「古い道具と昔の暮らし」が3年生の3学期の単位となっているため、早めに依頼する学校によって、12月中には12月から3月までの実施可能日が早めに埋まってしまい、その後の依頼を受けることができなくなるためである。平成25年度は30校ほど実施できなかったが、今年度はそれを上回る勢いである。実施数は平成23年度の78校が最も多いが、実施できないだけで、依頼は既に飽和状態にあり、平成25年度に依頼数は80校を超えている。

3 出前授業に対する工夫・改善

（1）早めの実施を促す（実施数を増やすための）PR活動

12月から3月にかけて、実施可能日が埋まってしまい飽和している事は述べた。依頼のあった学校全てで実施するためには11月以前に実施する学校を増やすしかない。そこで、4月に行われる各地域最初の校長会や、夏休み期間中に開催される5年研・10年研などの先生方の研修会でPRの時間をいただき、そこで早めの実施と早めの申し込みを促している。結果として申し込みは早くなったが、実施時期は今まで通り12～3月に集中し、受付終了が早くなっただけとなった。

（2）出前授業指導マニュアルの作成

出前授業の「古い道具と昔の暮らし」は、郷土館の学芸員が協力して出張するのだが、小規模校以外は3名以上のスタッフが必要となる。しかし、教育普及担当は2名しかいないため、教育普及担当だけでは対応しきれない。したがって、他分野のスタッフとともに授業を行うことになる。しかも、12月から3月までほぼ毎日のように出

1) 青森県立郷土館 主任研究主査（〒030-0802 青森市本町二丁目8-14）

前授業を行うことになる。学芸員は出前授業だけが業務ではないので、民俗担当の学芸員ばかりではなく、他分野の学芸員もスタッフとして活用することになる。そうすると、スタッフによって指導内容が大きく変わってしまう。そこで、利用数の多い「古い道具と昔の暮らし」については、昨年度指導用マニュアルを作成、学芸課内で共有し、誰が担当しても指導内容が大きく変わらないようにした。

(3) HPの刷新

今年度は郷土館ホームページの中の出前授業のページに関して刷新した。出前授業の依頼のほとんどが「古い道具と昔の暮らし」であるため、その他の授業も行えることが分かるように、その他の単元についても掲載した。掲載は、3年生社会「古い道具と昔の暮らし」のほか、6年生社会「縄文のむらから古墳のくにへ」、4年生社会「きょう土を開く」、6年生理科「大地のつくりと変化」、6年生社会「長く続いた戦争と人々の暮らし」、6年生社会「江戸の文化と新しい学問」、自然観察会「植物・昆虫など」、「かさこじぞう」「たぬきの糸車」「ごんぎつね」などの国語教材（戦争教材）での活用、1年生生活「昔の遊び」である。また、先生方が簡単に活用できるようにそれぞれの単元に簡単な指導案も併せて掲載した。

4 出前授業の実施に関するアンケート

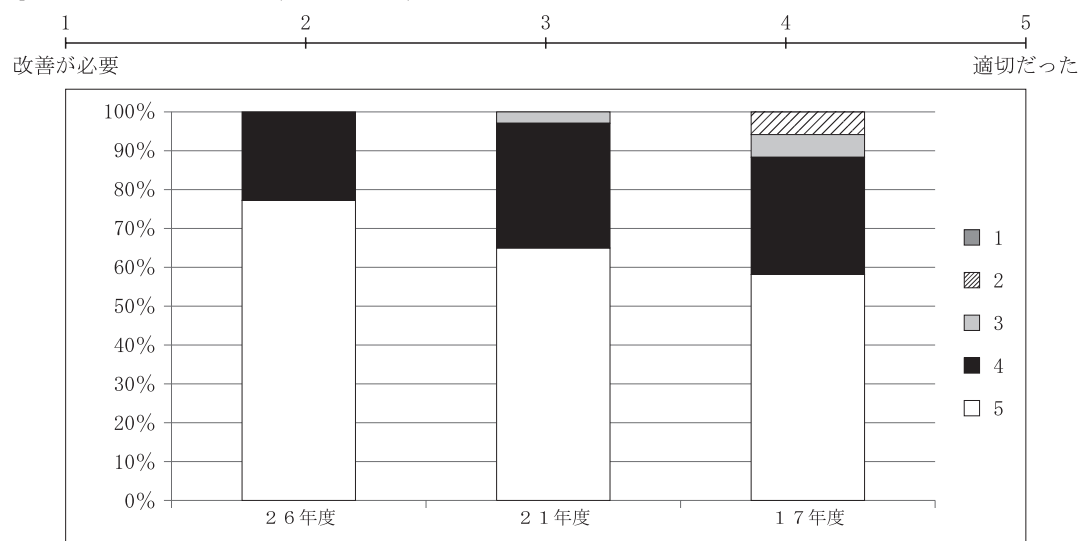
出前授業の要望は大きくなっているものの、実際に過去と比べて学校の要望や満足度はどうなっているのか調べるため、実施した学校に対して、アンケートを行った。過去と比べるため、アンケートの項目は基本的に過去に行ったアンケートと同様とし、主に平成17年、21年度と今年度を比べてみることにした。（平成26年度は現在まで実施・回答があった16校分）

①今後、「出前授業」の実施に臨むことは何ですか。（複数選択可）

- ・このままでよい
- ・体験メニューの充実
- ・体験時間の確保
- ・資料の充実
- ・資料の精査
- ・わかりやすい解説
- ・専門的な知識
- ・問題解決的な授業構成
- ・当館職員の指導技術向上
- ・打ち合わせの簡素化
- ・中身の濃い打ち合わせ
- ・事業の周知や広報
- ・その他

平成21年度は、「このままでよい」は5.4%にとどまり、体験メニューの充実（40.5%）、体験時間の確保（29.7%）、資料の充実（21.6%）と続き、資料の充実や体験に関しての不満が多いことが分かった。しかし、資料を充実させると、話す内容が増加し、結果として体験活動の時間の確保が難しくなって、体験に関する不満が増えることになる。そこで、現在は資料数・体験メニューは増やさずに、内容を精選して話し、体験時間の確保することを意識して授業を行っている。その結果、今年度は「このままでよい」は75%となり、体験メニューの充実が12.5%、資料の充実が6.3%、体験時間の確保は0%という結果となった。

② 当館との連絡調整（打ち合わせ）はスムーズに進みましたか？

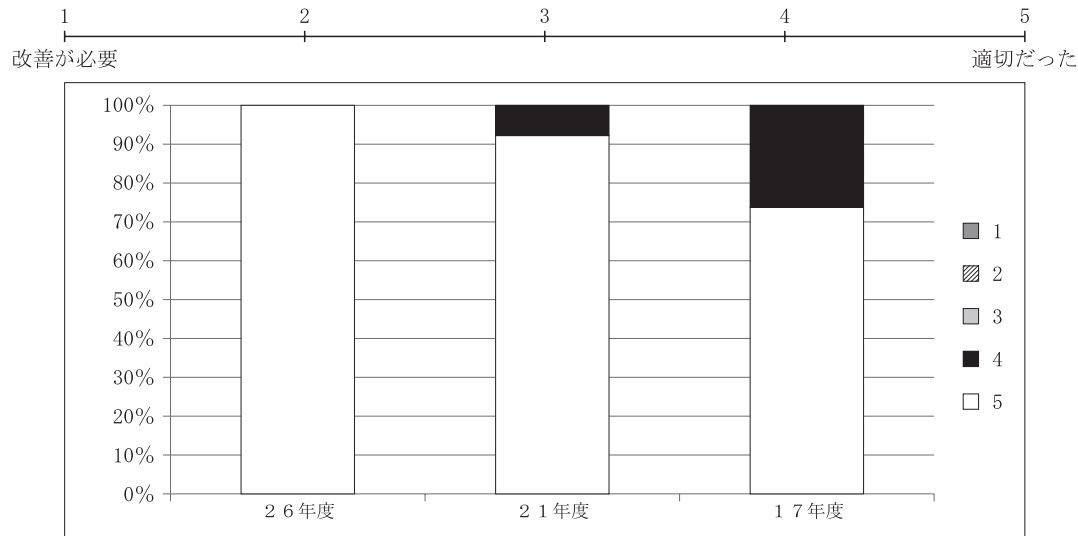


連絡調整に関しては、簡単になるように心がけている。申し込み・受け付・実施案の検討・実施という流れになる。先生方は日々の授業があり実施案の検討をすることも大変な労力になると思われる。そこで、前に実施した先

生・学校で、とくに変更がなければ同様のものを使うものとし、前述したがHP上に指導案を掲載しているので、そのまま利用できる場合はそのままの指導案で実施している。

今年度の感想として、「ほとんどお任せだったがとてもよかった」「事前に指導案を添付していただき、大変ありがたかった」「スピーディーに進み、かつ理解しやすかった」などの声が寄せられたが、「前より打ち合わせが増えたような気がする」という声もあった。

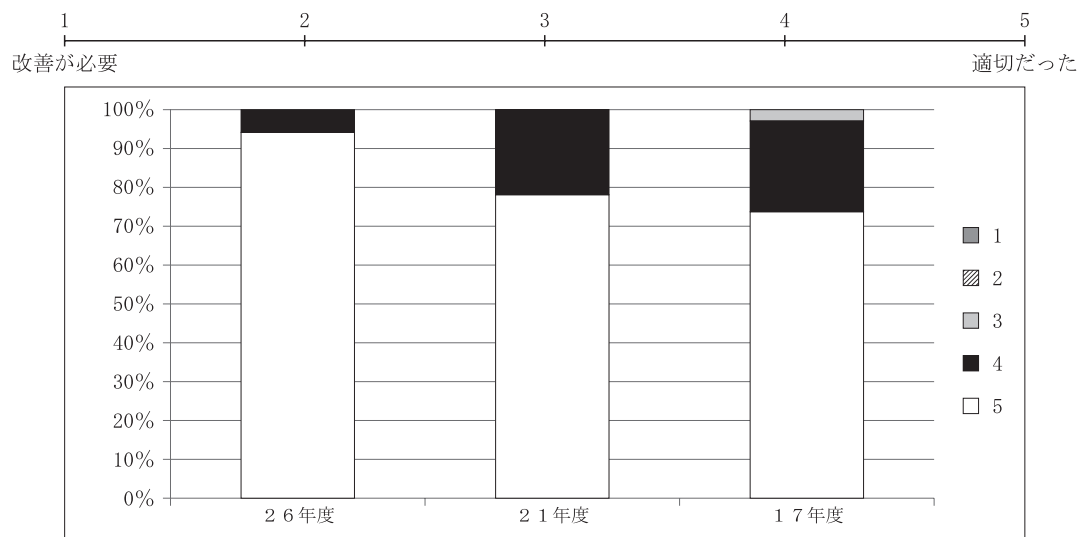
③当館職員の解説内容は適当でしたか？



平成26年度は、学芸員の解説内容に対し100%が適切だったとの回答があった。指導用マニュアルの活用もあるが、出前授業に参加するスタッフが出前授業に理解を持ち、話す内容がほぼ統一され、学芸課の誰が行ってもほぼねらいに沿った内容を話すことができるようになってきたためと思われる。また、郷土館の学芸員のほとんどは教員出身で、要点を踏まえて話す事ができるのも満足度が上がった要因と考えられる。

今年度の感想からは「わかりやすく、なおかつ楽しかったので、子どもたちが話に引きつけられていた」「児童をひきつける実物資料とともに、わかりやすくおもしろい解説だった」「具体的で分かりやすい話の内容は子どもたちにとって学びの多いもので素晴らしかった」など、満足している感想が数多く寄せられた。

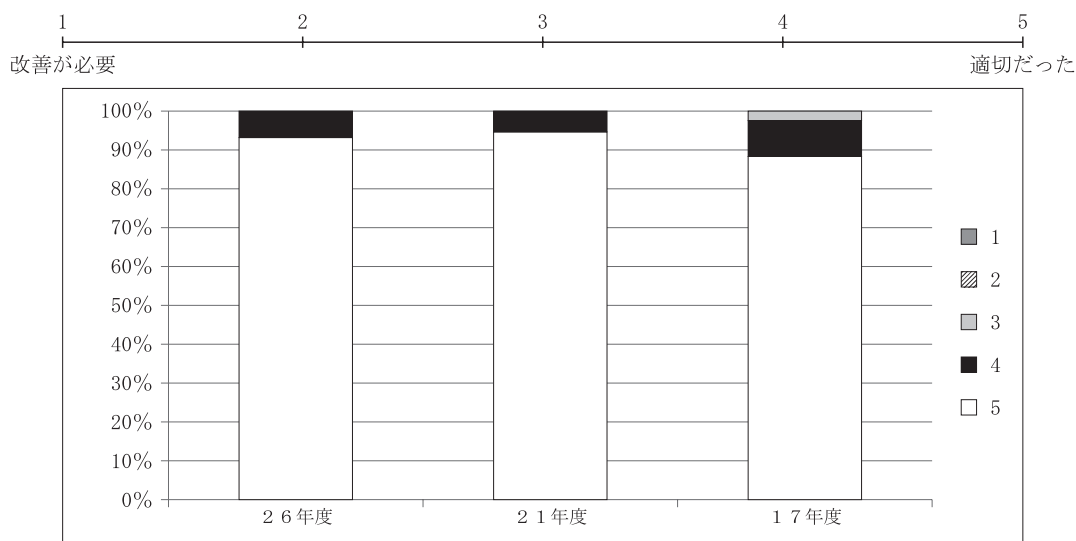
④ 資料の数や内容は適当でしたか？



資料の数や内容に関して、平成21年度から大きく変更した部分はないが満足度は上がっている。これは、話す内容が向上したためと考えられる。感想には「時間的にも内容的にも多くも少なくもなくちょうど良かった」「数が多く体験時間が短くなるかと心配したが、ちょうど良い時間であり、内容だった」「テーマに合わせ、資料が厳選されていてよかった」などがあつた。なお、満足度4の感想として「当日は見て、聞いて実際に触れて…ということで、大変良かった。資料の数や内容も人数に対してちょうど良かった。展示物それぞれに名札があれば触れた時に再確認できると思う」とあつた。最初から展示物に名札を付けてしまうと話に集中できず、メモに徹してしま

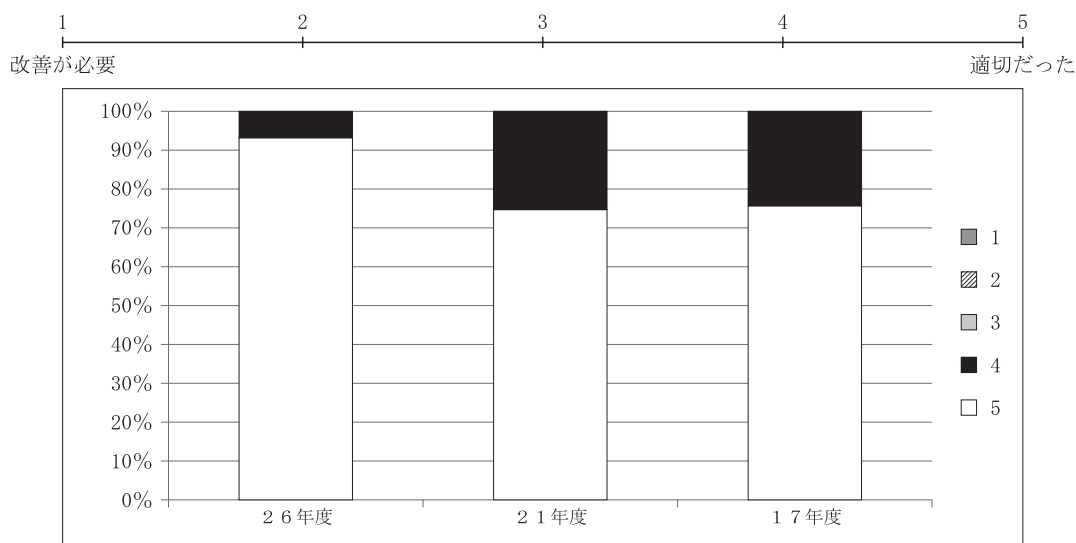
う恐れがあると考えて付けていないが、説明が終わった後で付けるなど対応を考えていきたい。

⑤ 当館職員の児童生徒に対する接し方や話し方はどうでしたか？



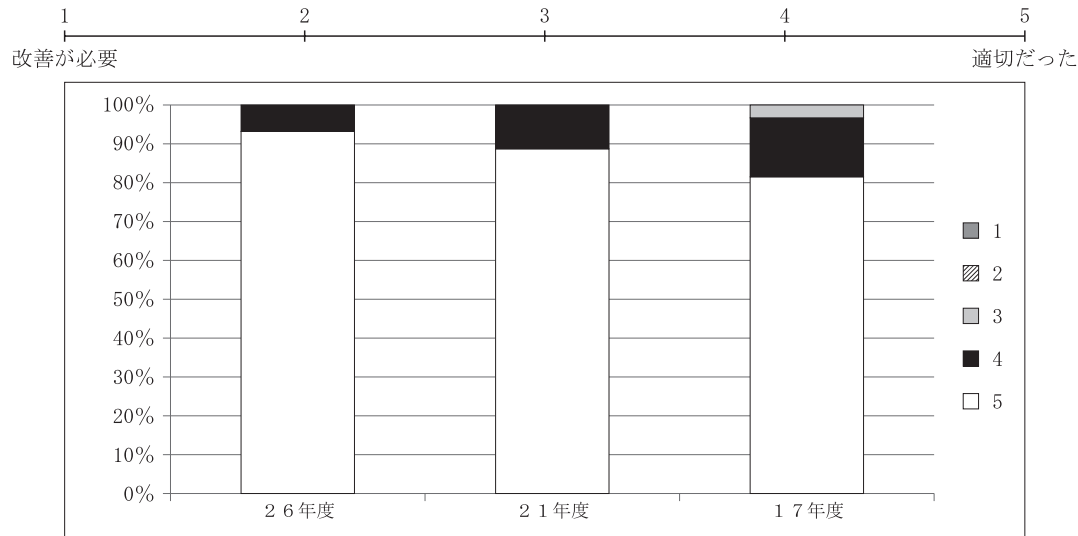
9割以上が満足度5であり、特に問題はないものと考えられる。感想からは「親切丁寧に接してもらって感謝している。注意事項やその理由も話し、しっかり指導してもらった」「説明の仕方が非常に分かりやすく、興味深く聞ける内容だった。さすがプロと思った。(短い時間に濃い内容を学ぶことができた) また、笑顔であたたかく接してくれてありがたかった」等があった。満足度4の感想は「やさしく、楽しく、時に厳しく子どもたちに接してくれた」であり、特に考慮する必要はないと考える。

⑥ 授業のねらいは達成されましたか？



ねらいの達成についても9割以上が満足度5だった。話す内容の充実・体験時間の確保が実を結んだものと思われる。感想からは「道具の体験を通して、昔の人たちの生活の工夫や苦労について気付くことができた」「3学期の学習に生かすことのできる内容だった。教室に帰ってから感想を聞いたら先人の知恵や工夫を感じ取った子どもが多くいた」などがうかがえ、ただ道具について話すのではなくこちらが意図して伝えている内容が子どもたちに伝わっていることが分かる。満足度4の感想では「昔の人たちの知恵と工夫があったからこそ現代のわたしたちの生活があるのだということを、本単元を通じてこれから指導していきたい」とあった。

⑦ 今回の「出前授業」の総合評価は？



総合評価に関しても9割以上が満足度5だったとの回答があった。感想には「児童の心に響く授業だった」「なかなか資料となるものを用意できず、写真を見て学ぶことしかできないのだが、出前授業によって実際に体験し、昔の人々の暮らしに触れることができた」「子どもたちの実のまわりに古い道具がなかなかなく、3年生の子の単元では出前授業が頼みの綱となっている。本当に助かっている」などがあった。

⑧ 自由記述（平成26年度のアンケートより）

- ・準備から後片付けまで全部お任せしてしまいましたが、スムーズに進んでとても感謝しています。ありがとうございました。また、態度をほめていただいたことを伝えると子どもたちはとても喜んでいました。来年もぜひ3年生に宣伝したいです。
- ・たくさんの資料を見せていただき、本当にありがとうございました。これから単元を学習していくにあたり、今回の授業が多く生かされていくと思います。本当にありがとうございました。
- ・青森で実際に使われていたもの、そして今はもう手に入らない貴重なものを実際に見たり触ったりできて、とても良かったです。自分たちで作った「きなこ」に子どもたちはとても喜び、「こんなにうまいもの、食べたことがない」と言っていました。大変お世話になりました。どうもありがとうございました。
- ・とても有意義で素晴らしい内容でした。子どもたちは生き生きと学ぶことができました。また、午後の時間設定にもかかわらず引き受けてくださり充実した授業をしてくださったことを深く感謝申し上げます。機会がありましたら、また、よろしくお願いします。
- ・限られた時間の中で十分な内容でした。ありがとうございました。限られた時間の中ではじっくり観察することをなかなかさせられないのですが、出前授業後郷土館へ連れて行きたいけれども距離的にも難しいため、貸し出しサービスのようなものがあればうれしいなと思いました。
- ・社会科の授業にとっても役立つ内容で大変良かった。メモをしながら見たり説明しないというのもよかったが、後で思い出したり、まとめたりするための資料があればもっとよいと思う。是非ほしいと思った。わたしたちの反省でもあるが、石臼ばかり何度も体験し、他の道具をほとんど見なかった児童も数名いたので、配慮するべきだった。今後の授業にとっても役立ちます。本当にありがとうございました。

5 考察

青森県立郷土館が小学校で行っている出前授業は年間60校ほどで、これは、県内の小学校323校の2割近くになっている。要望しているが実施できなかった学校をあわせると3割近くに及び、年々活用を望む先生方が増えている。今後、要望する学校全てで授業を行うとなると、2学期での利用数を増やすしかないのだが、2学期の利用をPRしても授業の実施時期などで増えないのが実情である。また、教育普及分野の学芸員は現在2名であるが、11月～3月まで出前授業で予定が埋まってしまう。更に児童の人数に合わせて他の分野の学芸員も連れていくことになるのだが、教育普及分野の担当を含め出前授業以外の業務もあるため、業務の遂行に支障が出てくることになる。教育普及のスタッフが、現状の人数である限りこれ以上の利用増加は難しい。

アンケートの結果をみると、以前よりも学校団体の要望に沿った内容になり、満足度が上がってきている。これは、いままでの教育普及分野の担当をはじめとして、学芸課全体で重要なものと位置付けて積極的に工夫・改善を

行ってきたためであろう。ただ、連絡調整に関してはもっと簡単に利用したいという要望もまだある。しかし、学校のねらいにあわせ、出前授業の内容を意義のあるものにすり合わせていく上で必要な部分でもあり、今後の対応については熟慮が必要であると思う。

自由記述の中に「限られた時間の中ではじっくり観察することをなかなかさせられないのですが、出前授業後郷土館へ連れて行きたいけれども距離的にも難しいため、貸し出しサービスのようなのがあればうれしいなと思いました。」「後で思い出したり、まとめたりするための資料があればもっとよいと思う。是非ほしいと思った。」との記述があった。「貸し出しサービス」に関しては、借りたい時期がおそらく出前授業の時期と重なり、資料を授業のために持ち歩いているため、現実的に難しいと考える。「貸し出しサービスの代わり」及び「思い出したり、まとめたりするための資料」として、写真付きで展示資料リストをホームページ上で公開し、活用できるようにしていきたいと思う。

6 最後に

今年度の青森県立郷土館を利用した小学校は、出前授業が60校、来館しての観覧が63校で、合わせて123校（予定を含む）になり、これは、県内の小学校全体の4割近くに及ぶ。更に、出前授業を希望したが実施できなかった学校、天候や流行性感冒等でキャンセルになった学校をあわせると5割ほどにもなる。県内の小学校における青森県立郷土館の必要性は高く、教育普及分野はとても重要なものと考ええる。今後、更に学校団体が活用しやすい施設になるように工夫・改善に努めていきたい。